

世界へ

1955年6月に来日したデヴィッド・リン監督は次回作「風は知らない」の主演に私を抜てきしたことを正式に発表した。銀座の喫茶店で私はしゃちほこばっていた。

私の履歴書

子 恵 岸

⑬

外国人監督から依頼続々

燃える好奇心、英仏へ語学留学

「サビー（映画の主人公の名前）にもおちゃめなところを書き加えましょう」

その年の大みそかに私は英語をマスターするためにロンドンへ発った。南回りで7つの国に降り、7つの初日の出を見た。最後の中継地パリに着いたのはボタン雪が降る1月2日。小説「凱旋門」に描かれたシャンゼリゼが見えたのでパリに1泊した。

私はコンコルド広場から幻へ向かって歩いた。凱旋門の壮大さに息を飲みながらシャンゼリゼ大通りを振り返り、（なんて美しくて寂しい街なのだろう。こんなところに私は住めない）と思った。1年半もたらずにパリの住人になろうとは夢知らず……。

リン監督の「風は知らない」はプロデューサーの急死によりクランクイン直前に撮

も見て感激していたので急ぎよ、フランス語習得のため、パリに移った。目まぐるしい変化に私の好奇心は燃えた。大船撮影所からロンドン、ロンドンからパリ、英語からフランス語……。私の生活環境は著しく変わっていった。

「お隣の男性、私の体重の3倍はあると思います。私も荷物を全部合わせても、彼の体重にはなりません」

「体重と荷物は別です」

必死な陳情の末、日本では払いしなくては決着した。

後に「忘れぬ慕情」（「長崎の台風」から改題）の撮影中だった私に「僕は朝鮮人です」という手紙が届いた。



来日したデヴィッド・リン監督（左）やリチャード・メイスン（中）と（横浜の自宅）

紙が届いた。

彫刻のように端正な面差し、リン監督に見つめられ、緊張した私はミルクをコーヒークップから10秒も離れたテーブルの上にボタボタとこぼしてしまった。私は慌てるとカップのないところに飲み物を注ぐ癖があるらしい。

リン監督が笑った。

亡命医師とイングリッド・バーグマンふんするヒロインがカルパドス（仏ノルマンディー地方の蒸留酒）を飲んだカフェはどこだろう？

世界的なヒット映画にもなった「凱旋門」は当時の若者が熱狂した物語だった。その日のシャンゼリゼ大通りは降りしきる雪で煙っていた。はるかかなたに幻のような凱旋門がそびえ立っていた。

影中止となってしまった。

原作者リチャード・メイスンさんが夫妻で私を温かく迎えてくれたが、後半は英中部レスターシャーの学校に移った。

寄宿舎で聞いた撮影中止にはかなりの衝撃を受けた。その私に「亡命記」を見たというフランスのイヴ・シヤンピ監督から「長崎の台風」への出演依頼の電報が届いた。彼の「悪の決算」を2度

驚いたことに出演が決まった「長崎の台風」のプロデューサーから、額は忘れたが莫大な出演料の一部を頂いた。それを3カ月滞在のパリで全部使い果たしてしまった。

帰国の日、エールフランスのカウンターで私は必死に抗

「僕はあなたがパリの空港で『私の体重の3倍はある』と抗議なさった時の男です。力道山といいます……」

こともないけれど、この頃の私には摩訶不思議な偶然や出会いが重なった。（女優）